

平成 29 年度 美祢市廃棄物減量等推進審議会 会議録（要旨）

日 時：平成 30 年 3 月 19 日（月） 9 時 30 分～11 時 28 分

場 所：美祢市立美祢図書館（視聴覚室）

出席者：廃棄物減量等審議会委員（今井会長ほか委員 13 名）

※出欠席については、別紙 1 のとおり

事務局（大野市民福祉部長、古屋生活環境課長ほか 4 名）

合計 20 名

要旨（概略）

1 開会

古屋生活環境課長により開会

2 あいさつ

西岡市長よりあいさつ

3 委嘱状交付

西岡市長より代表の委員に交付

4 委員及び事務局紹介

各委員及び事務局職員自己紹介

5 会長・副会長の選出

会長に今井委員、副会長に中嶋委員を選出

6 美祢市の廃棄物処理の統一について（諮問）

西岡市長が諮問書を今井会長に交付

7 議事

◆付議事項

（1）美祢市の廃棄物処理の現状及び課題について

事務局より資料に基づき説明

【委員の質問】

不燃物の 3 地域の施設の開所日数に大きな差があるが、今後の方向性についてはどう考えているのか？

【事務局の回答】

利用状況を精査し、平準化することが望ましいと考えている。

【委員の質問】

ごみ集積所の設置数の地域間での差、ごみの出し方や収集回数、美祢地域では複数業者に委託している収集業者の業務範囲などの多くの課題が挙げられているが、どう整理して今後取り組んでいくのか？

【事務局の回答】

まずは、ごみの出し方や収集回数など地域間の差が大きいと考えられる課題を短期的に解決すべき課題として整理し、今後の審議会での審議を経て統一案策定に繋げていきたいと考えている。

【委員の質問】

ごみ集積所数の地域差が大きいですが、住民からの不便な意見は無いのか？

【事務局の回答】

資料のとおり、美祢・秋芳地域と美東地域では集積所1箇所当たりの世帯数に大きな差がある。

ごみの出し方や収集回数と同様に、集積所の設置数も地域住民は自分の住んでいる地域が当たり前だと考えているために、他の地域が多い・少ないという意識が働きにくいものと考えている。

【委員の質問】

秋芳地域は、美祢地域並みの集積所数となっているが、その中には使用されていない集積所や、目に見えるような間隔が近い場所に集積所があったりするような例もある。先程高齢者等対策のための集積所の増設という話があったが、集積所は多すぎても少なすぎても駄目だと思う。市としてはどう考えているのか？

【事務局の回答】

集積所の増設による住民の利便性の向上と、ごみ収集の効率化は相反するものであるため、バランスを取る事が非常に重要であると考えている。現在、集積所の設置状況の精査を行っている。その結果により、今後のあり方を考えていきたい。

【委員の質問】

美東地域は、確かに集積所数が少ないと思う。市としてどう考えているのか？

【事務局の回答】

美東地域に限らず、市内全体の集積所の設置状況を精査し、利用者である地区の住民の意見も聞きながら今後のあり方を考えていきたい。

【委員の質問】

秋芳地域の固形燃料化できるごみの収集回数は、週3回となっている。資料にあったとおり、ごみ入れのかごが小さく感じるが、ごみが入り切らなくてカラスなどの有害鳥獣に荒らされることがあるのではないかと？

【事務局の回答】

かごにごみが入りきらない場合は、かごの外にごみ出しがされている場合もあり、有害鳥獣などに荒らされる場合もある。

ごみ集積所は、各行政区の自治会等使用者が所有及び管理している物であり、必要に応じて使用者が自ら経費を負担し、ごみのかごを増設している。

【委員の質問】

かつての美東町のように、市が集積所の設置に対して補助金を出して、美東地域のような建屋タイプの集積所にすれば良いのではないかと？

【事務局の回答】

美祢地域と秋芳地域だけで集積所が1,000箇所程度ある。一つの行政区に建屋を一つ設置するとしても莫大な箇所数となり、地区内での用地の選定及び確保や経費の問題が大きく、困難と考えている。

【委員の質問】

美祢地域に住んでいるので、缶類やびん類を集積所のコンテナに集めた後の運搬方法がよく分からないがどうやって運搬しているのか？

【事務局の回答】

ごみの量、収集車両などによっていろいろな運搬方法がある。コンテナから缶などのごみだけを収集車両に移したり、ごみの入ったコンテナごと車両に載せて替わりのコンテナを集積所に置いたりという方法が使われている。

美東・秋芳地域では缶類、透明びん、茶色びん、その他びんのそれぞれの資源ごみの種別に収集日を設定している。近隣自治体も概ね似たような収集日の設定としており、美祢地域の収集日の設定が異質と考えている。

【委員の質問】

資料にあった、美祢地域の金属ごみの収集日に缶類が入った指定容器がたくさん集

積所に山積されている姿は、美東地域の住民の目からすると異様に見える。

また、秋芳地域は美東地域と同様にコンテナを使っているが、集積所が建屋ではないため、コンテナが開いたままとなっているものもある。このような姿はごみの不法投棄を招くのではないか？

また、ごみの減量や分別は教育が重要だと思われるが、市としてはどう考えているのか？

【事務局の回答】

集積所を全て建屋タイプにしていくというのは、先程回答したとおり用地や経費の問題があり、困難と考えている。

集積所へのごみの不法投棄については、通行量の多い道路に面した集積所を管理する自治会はどこも対応に苦慮しており、市へ相談されるケースも多い。

この問題は、ごみ出しを行う行為者のモラルに起因しており、解決への決定打が無いために市も苦慮している。

ごみの減量等の市民啓発は重要なものと考えており、要請があれば各団体等への出前講座を行っている。今後も積極的に行いたいと考えている。

【委員の質問】

美祢市リサイクルセンターでは、ごみをどのようにリサイクルしているのか？使えそうな自転車もごみとして入ってくると思うが、再利用できないのか？

【事務局の回答】

空缶類、ペットボトル、混じりのないプラスチック類はそれぞれプレス機で圧縮後、資源物として売却しリサイクルを行っている。自転車は、年に数件市民から譲って欲しいという問い合わせがあるが、金属ごみとしてその他のくず鉄ごみと同様に再生業者に引き渡している。安全に乗れるための整備及び防犯登録を行うなど手間をかけて市民に有償で譲る等のサービスを行っている自治体の例もあるが、現状のリサイクルセンターの設備では対応が困難で、センター経費の高騰にも繋がるため実施は考えていない。

【委員の質問】

固形燃料化できるごみの中には、生ごみが多いと思う。カルストクリーンセンターでは処理したごみの乾燥に燃料を使用していると思うが、どれくらいかかっているのか？また、生ごみの減量化について市はどう考えているのか？

【事務局の回答】

燃料は灯油を使用している。灯油代については、原油相場の変動があるので一概に言えないが、電気代と並んでセンター経費としては大きい部類に入る。

灯油の使用量については、平成 28 年度実績で 22 万リットルである。昨年 6 月号市広報紙で生ごみのひと搾りによるごみの減量化等を内容とした記事を掲載し、市民啓発を行っている。

【委員の質問】

資料では、秋芳地域はペットボトルをつぶして出すこととなっているが、美祢・美東地域はそうっていない。どうして違うのか？

【事務局の回答】

ペットボトルに限らず、缶類などの資源ごみも同様であるが、美祢・美東・秋芳それぞれの地域の市の不燃物施設の能力が異なり、資源ごみの売却先もそれぞれ異なるため、地域ごとで異なっている。資源ごみは市民から預かった大切な市の資産であるので、一元管理して入札を行い少しでも高い値段で売却する方向性としていくのが望ましいと考えている。

ペットボトルをつぶす、つぶさないも同じ市内で出し方が異なるのは好ましくなく、統一していくべきだと考えている。

(2) その他

【委員の質問】

特になし。

【事務局の回答】

特になし。

【会長より会議の総括】

本日は、課題の認識と統一案の策定に向けての摺り合わせが主な内容となったと思う。質問も多く出て、課題の整理が大変な作業になると思われる。

統一をしていくのは、もちろん重要な事であるが、悪平等となる場合もあるので、次回の審議会では、統一案の内容や手順をしっかりと詰めていきたいと考えている。

8 開会

古屋生活環境課長により閉会（11 時 28 分）